

狭山ヶ丘中学校ふれあい講演会で仕事を語る

埼玉地方協力本部は、六月十五日（水）所沢市立狭山ヶ丘中学校において開催されたふれあい講演会において、広報活動を実施した。

この講演会は地元「彩の国（埼玉県）」で働く様々な人の仕事への思い、やりがいと苦労や職業意識に触れることにより、望ましい職業観を育むことを目的とするものである。埼玉地本からは入間地域事務所の航空自衛官長島二空曹が、航空機整備員の戦闘機や輸送機等を安全に飛行させるため、一つのミスも許されない仕事内容や海外派遣で整備用資材を現地調達した苦労話など自らの体験を語った。集まった生徒はメモを取りながら熱心に講演に聞き入っていた。

埼玉地方協力本部はこれからも講話を通じて自衛隊を理解していただけるよう努力していく。



中学校で自衛官の職業紹介

埼玉地方協力本部は、六月十八日（土）上尾市立上尾中学校において行われた職業シンポジウムに参加した。このシンポジウムは様々な分野で働く十九名が講師として職業紹介を実施し、働く人々の考え方や生き方を知ることにより勤労の意義について考え、生徒一人一人の勤労観、職業観を育成することを目的とするものである。埼玉地本からは広報室長の伊藤一等海尉が「夢・目標の実現」をテーマにオリンピックとしての経験を述べて、「夢や目標は人それぞれ違うが、実現するためには日々の地道な努力が重要であり、挑戦した人だけにチャンスはある」と熱く語った。生徒達は真剣な眼差しで聴いていた。

聴講していた父兄からは「感動した！ぜひ大人向けにも講演してほしい」と声をかけていただいた。

自衛隊埼玉地方協力本部では、これからも講話を通して防衛省・自衛隊の真の姿を理解していただけるよう努力していく。



二万年前の空気を吸ったよ

埼玉地方協力本部は、六月二十五日（土）入間市久保稻荷公民館で行われた家庭教育セミナーに参加し、砕氷艦しらせの活躍と南極の氷にふれる広報活動を行った。子供たちが多く参加するセミナーのため、本物の南極の氷や映像、説明パネルを使用し解りやすく説明した。中でも南極の氷は子供たちの興味をひき、実際に見て触って音を聞いたり、楽しみながら学んでいた。子供たちからは「冷たくて気持ちいい」「ぼちぼち音がする」などの感想が寄せられた。

また、質問の時間になると元気に手を上げ「ペンギンは何種類いるのですか」「南極はどの位寒いのですか」などと質問していた。

自衛隊埼玉地方協力本部は引き続き広報活動を通して自衛隊の活動を紹介していく。

